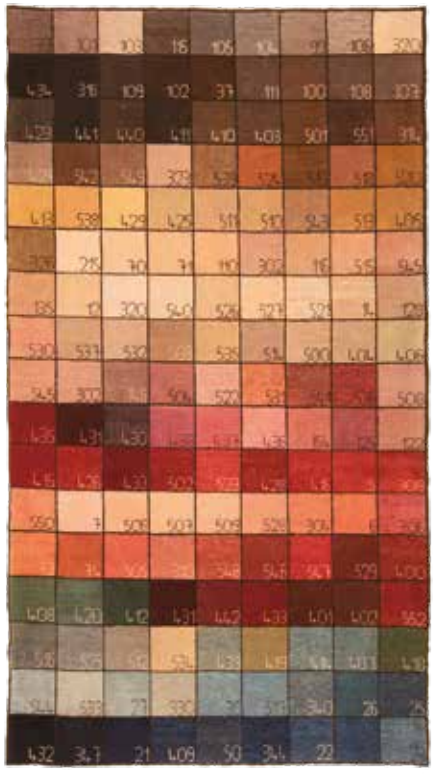
438	437	436	154	125	122			
415	426	433	502	523	428	416	5	308
550	7	506	507	509	528	304	6	306
73	74	505	310	548	546	547	529	400
408	420	412	431	442	433	401	402	552
516	525	512	534	439	419	414	407	418
541	533	27	330	35	517	340	26	25
432	347	21	409	50	344	22	342	23

RARAT COLLECTION
VOL III

FOREWORD

Hakan Karar カラル ハーカン



Cover illustration

自然染めのカラー見本 (138cm x 245cm)

カーペット製作に必要な153の基本色を使って、1枚に仕上げた色の見本絨毯です。

各色にはコード番号が付いています。それを辿ると、糸染めに使った原材料、数量、媒染剤などのデータがわかるようになっています。糸だけでは判断できない、カーペットとなった時の質感や色の見え方がわかるので、注文生産を希望するお客様との話し合いには、この色見本カーペットが欠かせません。

153の基本色以外のアレンジもできます。注文主さまからのご要望は、経験豊かな職人たちに委ねられます。その過程では、この色見本カーペットを原点にして、ここに立ち戻り、そしてまた先に進むという作業を繰り返します。

Title page

糸を紡ぐ女性クルド人

家事の合間の少しの時間を見つけては糸を紡ぎます。1日頑張っても、紡げる糸量は3キロとか4キロ程度。指定された糸の太さや形を勘と経験で紡ぎますが、やってみるとこれが意外に面白い。

工業化以前に作られたアンティークのカーペット（絨毯）は、世界のコレクターを虜にしています。その希少性、芸術性から、絵画などと同じような投機的価値も認められています。

しかし、世界が工業化を進めた結果、伝統に根ざした地域固有の生産体制は廃り、作られるものの質は大幅に低下しました。生産の現場は、低賃金を追いかけて世界中を移動しています。これでは、アンティークカーペットに憧れ、懐かしむだけの道しか残りません。

そこで、この21世紀にあっても、質の高い「明日のアンティーク」と呼ばれるようなものを作りたい。そう考えて、私たちは、2018年、トルコのアナトリア地方南東部のマラティア、ディアルバクルなどに、カーペットの生産拠点を構築しました。

カーペット生産には、多くの工程があり、担い手のタイプもさまざまなので、拠点といっても、一箇所集中するのではなく、複数の専門工房がクラスター状に分散立地して、完成品に向けて相互に連携する形をとりました。これは、暮らしとともにある、かつての生産の仕組みの再現です。

トルコ、とりわけこの地方には、長い伝統に根ざした技術を辛抱強く伝える、熟練した手仕事の人びとがいます。紡ぎ、染め、織り、それを支える多様な分野の達人たちです。私たちは、この人たちの力を信頼し、ともに新しいカーペット生産に挑んでいくつもりです。これからも、キリムハウスの新しい挑戦に、お力をお貸しくださいますようお願いいたします。

「21世紀のカーペット」づくりの目的を整理すると、次のようなことになるでしょうか。

① 紡ぎ、染め、織りの伝統技術を守りながら、21世紀を生きのびる企業活動を持続する。

② 地域で暮らす女性たちの能力開発に関わる。

③ カーペット発祥地のひとつであるこの地域の風土と文化をしっかりと織り込み、他産地との差異化をはかる。

④ これまでカーペットのある暮らしに馴染みの少ない日本の方々に、本物を見て、触って、使っていただきたい。

Oriental Rugs & Kilims
Vol III
Carpet Production in the 21th Century

オリエンタルラグ&キリム Vol III
21世紀におけるカーペットの生産

1

KERMAN CARPET

Provenance: Mount Holyoke College Museum of Art

Eastern Iran c. 1920 402 x 365 cm

織る風景 ディアルバクルのアトリエ
Diyarbakir Dervis Hasan koyu

織り機は鉄製。仕上がり幅の広いカーペットを製作中です。目の前に置いた図柄ボードを見ながら、経糸に手早く糸を通して結ぶ。結び目がいくつか揃ったところで、櫛状の鉄のハンマーを片手に持って、ガンガンと叩くようにして締めます。

古代文明の地、アナトリア東部に

私たちは、トルコのアナトリア東部にある、人口80万人程度の都市マラティアに生産拠点をつくりました。ここは、メソポタミア文明の地で、標高700メートルほどの高原にあります。現代の都市ですから工業化は進んでいるものの、主な産業は農業で、とりわけ、美味しいアンズの産地として有名です。因みに日本で売られているドライ・アンズの多くは、マラティア産のはずです。

私たちは、マラティアにメインのラボを置き、織りを中心にしたアトリエ（工房）を、車で往復できる範囲に数箇所設けました。近くのディアルバクルやハランなどですが、いずれも人が居住して6000年以上の歴史がある、メソポタミア文明発祥の地にあります。

魅力あふれる現代都市

現在のマラティアは、世界中から観光客が押し寄せる観光地でもあります。歴史好きで、長期間休みを取って旅行するヨーロッパ人、特にドイツからの来訪者が多いようです。

マラティアからディアルバクルへの移動は、車で4時間ほど、ティグリス川に沿って南東に向かいます。この川とユーフラテス川は、南東トルコの山岳地帯に源があり、下流で合流してペルシャ湾に注ぎます。二つの川の間に広がる土地という意味のメソポタミアが有名な古代文明の地であることは、ご承知の通りです。

ディアルバクルへのドライブは、大学のキャンパスや住宅団地のあるマラティア郊外を過ぎると、緩やかな丘陵からやや険しい山地に入り、右に左に、大きなダム湖を見ながら進みます。山肌に沿って青い滝が流れるところは、銅の鉱山です。道中には、良く耕された大規模農地が延々と続きます。メソポタミアが原産といわれる小麦畑です。思い起こせば、秋に通った時には、綿がはみ出したコットンボールで埋め尽くされた白い平原でした。　ともかく、広い、広い、広い。そこを、車で飛ばします。

都市化と共存する村

まもなくディアルバクルというところに入ると、20階ほどの高層マンション群が、道路脇から地平線の彼方まで林立して並び、これが古代メソポタミア文明の地かと仰天します。ディアルバクルといえば、旧市街地の周りを大きな城壁が取り囲み、その中にバザールやキャラバンサライがある、昔ながらのイメージをいまに残すユニークな古都として知られています。

都市圏の人口はマラティアのほぼ倍くらいといわれていますから、かなりの大都市です。旧市街に入りきれなくなった人々を、郊外にマンション群を建設して収容したといえそうです。今のトルコでは、住宅政策が進められています。しかし、これでは農村部に人が住まなくなり、農地は工場に変わってしまうのではないか、そういう不安に駆られます。

2

BIDJAR RUG

183 x 274 cm

織り糸

羊の毛を寄り集めて紡いだ糸を染めて、それを織り手の前に吊りさげます。織り手は使う糸を引き抜いて経糸にからげ、結び目を作りながら織り進みます。糸はとても丈夫ですし、結び目で地厚になっているので、その丈夫さは軽く数世紀を超えます。それ以上に強いのが自然染めした色。日本の植物染めは色落ちが早いですが、トルコのカーペットの自然染めは、炭素検査で13世紀と言われたようなアンティークものにも、鮮やかに美しく残っています。

といっても、私たちのアトリエのある村のひとつは、150戸程の家族が集まって暮らす伝統的な農村集落です。周辺には起伏のある農地が悠々と広がり、そこでは主に小麦を生産し、家の近くでは水牛や羊、七面鳥、アヒル、鶏などを飼っています。共同で窯を築いて、パンを焼く。いろいろな食品加工も、地域住民の共同作業です。

春には、あたり一面に色とりどりのきれいな花が咲きます。近代的な暮らしが好きな人は高層の団地に住めば良い、自分たちは、村の生活が好きだから、ここに住む。何ともおおらかで、気持ちの良い選択ではあります。

多様な連携で成り立つ、村の共同作業場

私たちが設営したアトリエは、小さな陸屋根の戸建ての建物です。3室あって、合計9台の織り機に向かって、若い女性たちが黙々と糸をからげてはハサミで切りそろえ、重い鉄製の櫛のような道具で、横一列の段を叩くようにして締めます。両手の届く範囲を一人が担当し、幅の広いカーペットになると、複数の織り手が横に並びます。

働き手は、若い未婚の女性が主力です。結婚するとやめる人が多いので、仕事の引き継ぎや新人養成は欠かせません。作業場に集まって働くことを通して、技術を教えてもらったり、グレードアップのための指導を受けることができます。働く場所が、職業訓練のための、もうひとつの学校になっているようです。

この「学校」は、私たち事業者が先行して確保した建物と、そこで働く人たちを、まず、行政が認定します。なぜなら、働く人たちへの給与は事業者が負担しますが、健康保険や年金など彼女たちへの社会保障は行政が担います。また、作業全体を見守り、指導する「先生」と呼ばれる熟練の女性に対する給与と社会保障は、行政が持ちます。

このような公的な資金援助は、インドやパキスタンなど低賃金労働の製品と競争するうえでありがたいことですが、トルコの物価や賃金ベースは安くありません。どうしても埋められない価格差をカバーする上で、正統な産地に残る伝統の技法を駆使した「明日のアンティック」を目指すことに行き着きます。

そして、地域社会を巻き込んだこのような動きは、昔ながらの村に新しい風を起こしてもいます。国境に近いこの地方には、シリアの戦乱から逃れてきた人たちのキャンプがありますが、キャンプから出てトルコで暮らすことを決めた人たちが、自分たちの働く場所を自力で作ろうと動き始めています。

原材料を提供され、指導者が派遣され、工賃の支払いも確実で、社会保障も受けられる。さらには、技術の習得の機会もある。このような新しい職場は、故郷を追われ、帰還の道筋も見えないキャンプの女性たちにとって、一筋の光明といえるでしょう。

3

KARAKOCAN RUG

early 19th century

198 x 119 cm

結び目が一段終わったところ

経糸にからげて作る結び目が、一段終わったところです。手で経糸に色糸をからげる関係で、端のところに糸がはみ出します。それを大きなハサミで切り揃えると、下のような絵柄がくっきりと浮き出ます。その積み重ねでカーペットができますが、一人が頑張って、ひと月に1メートル四方。速さを競う工場製品とは、所詮、土俵が違います

質を向上させるコンピュータ活用

手仕事をベースとした、新しい「21世紀のカーペット生産」では、手仕事の良さを保つことで、工業製品化している低価格カーペットとの違いを追求します。しかし、手仕事は高コストにつながります。その難題を解決するのが、コンピュータの役割です。これまで職人の勘に頼ってきた技能をコンピュータで数量化し、さまざまな経験をデータベース化することによって、手仕事の質を保ちながら、効率的な生産を行うことが可能になります。

コンピュータを利用したカーペット生産はいろいろな場面で見受けますが、従来のやり方には基本的な問題がありました。大量生産、低価格化を可能にはしましたが、無残な質の低下を招いたのです。

私たちは、この教訓を生かして、質の低下を招かない「21世紀のカーペット生産」をめざします。言い換えれば、質の向上に貢献するようなコンピュータの活用です。

その一例が、表紙写真でご紹介した、色見本カーペットです。コードを通して、使用する染めの材料とともに、数量や焙煎などの基本情報がわかるようになっています。そして、染色の結果を糸だけで示すのではなく、質感のわかる実物のカーペットという形でお見せしています。言い換えれば、染めに関する職人の経験値をデジタル化して、その結果を、アナログのリアルなカーペットとして、お見せしているということです。

カーペットを使うお客様も、その製作に関わる私たちも、ともに人間です。人間が見て、触って、感じる場面を大切にすべきと思っています。人の感性が関わると、たとえデータベースが同じでも、二つとして同じカーペットにはなりません。コンピュータに制御された工業生産を越えて、人の感性を大切にすることが、私たちの求める「21世紀のカーペット生産」の基本です。表紙の色見本カーペットはその手がかりの一つです。

図柄ボードとコンピュータ・グラフィックス

アナトリア東部に散在するアトリエ（工房）は、マラテイアにあるメインのラボからカーペットの発注を受けます。その時、必要な色をすべて染めた、整経（せいけい）済みの糸の束と横糸、模様を細かく指示した図柄ボードを受け取ります。

図柄ボードは、伝統的には手書きでしたが、現在は完全にコンピュータの作業になっています。それは実寸の型紙のようなもので、模様の上に縦横の線が引かれていて、ひとつひとつのグリッドの中に、何色の結び目が横と縦にいくつ入るかが解析されて書き込まれています。この図柄ボードは作業の指示書であるとともに、仕事を終えた夕方、グリッド数を数えて先生に伝えると、それが月末に受け取る給与算定のデータにもなります。

美術館に展示されているような高級カーペットであっても、それを撮影して、図柄ボードのソフトで処理することで、模様につながる結び目の色

4

NORTH WEST PERSIAN RUG

350 x 271 cm

織り手の女性たちと私　アドゥヤマン・ゲルゲルのアトリエ
Adiyaman Gerger

ここは広いし、まだ経糸を張る前なので、織り機の形がよくわかります。正面のベンチに8人の女性が座っていますが、織り始める時は、機の方に向かって4人くらいが等間隔に並んで座り、作業することになります。いつもは、顔見知りの女性ばかりなので賑やかですが、異分子参入でこの日は静か。「アートな仕事は、少し退屈だけど楽しい」そうです。

がどのようなものであるか、必要な色糸、糸量はどの程度かなどを把握することができます。しかし、白い糸を染めて、目標の色に近い糸に仕上げるためには、熟練した職人の技能が欠かせません。

因みに、トルコの熟練した織り手たちは、必ずしも図柄ボードの全体を必要としません。ボードの4分の1を機の前に掲げて、仕事を進めます。カーペットは基本的に左右対称であることと、上下反転や鏡映反転の作業を頭の中で速やかにやってのけられるからです

図柄全部を使いながら、指示に忠実に作ろうとする新興国の織り手とは、その点で大きな違いがあります。また、そのような熟練の技があるからこそ、仕上がった製品にも織り手の個性が現れてきます。

図柄ボードによって、注文を正確に具体的に示す一方で、織り手側が、その技量やセンスを十分に発揮できるようにすることが重要です。正確無比なコンピュータ制御と職人のセンスを取り込む余裕。言い換えれば、デジタルとアナログのせめぎ合いとバランス。これも私たちが求める「21世紀のカーペット生産」のポイントのひとつです。

伝統技能と最先端技術の融合

「明日のアンティーク」となるカーペット作りの基本には、伝統と熟練の技が不可欠です。例えば、手紡糸はどんなに頑張っても一人1日3、4キロしか紡げません。一瞬にして終わる化学染めに対して、幾度も火を通し、晒す、濾すという作業を繰り返す自然染めの手法もそうです。織りにいたっては、一人が一平方メートルを仕上げるのに一ヶ月は必要です。

あくまで効率を求める現代社会の中で、このようなスローなビジネスをどう考えるべきでしょうか。カーペット生産においては、機械化して、工場で大量に製品を作る。安い化学繊維に代替させる。世間に出回るカーペットの多くが、このように変化してきました。ビジネスとして生き延びた代償として、質の良いものづくりの伝統と技能が風前の灯のような状況に陥っています。

しかし、トルコに目を向ければ、アナトリア東部の風土に根ざした人びとの営みが、今も連綿と続いています。村の中に分散する様々な技能、職能に、外から新しい風を吹き込めば、消えそうになっている伝統の炎がまた燃え上がるかもしれない。そう考えて、いま、私たちは、新しい「21世紀のカーペット生産」に挑戦しようとしています。

5

MALATYA ANTIQUE KILIM

165 x 386 cm

6

NORTH WEST PERSIAN RUG

182 x 280 cm

7

USHAK RUG

249 x 319 cm

8

MAMLOUK RUG

154 x 280 cm

9

MAMLOUK RUG

277 x 371 cm

10 DRAGON RUG

213 x 310 cm

11 BIDJAR RUG

243 x 283 cm

12 KONYA OBRUK ANTIQUE KILIM

143 x 206 cm

13 WEST ANATOLIA ANTIQUE RUG

125 x 185 cm

14 SHIRVAN RUG

199 x 260 cm

15 ANTEP ANTIQUE RUG

95 x 155 cm

16 ESME KILIM

150 x 330 cm

17 BIDJAR RUG

136 x 228 cm

115 x 90 cm

112 x 69 cm

131 x 74 cm

108 x 80 cm

FISH RUGS

Modern Style All Natural Dye

19 ANATOLIA ANTIQUE RUG

313 x 106 cm

ORIENTAL RUGS AND KILIMS VOL III
オリエンタルラグ&キリム Vol III
by Hakan Karar カラル ハーカン

Organised by

青山キリムハウス

（株式会社アララット･インターナショナル）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷 2-8-3-1F

Tel: 03-5467-2622
E-mail: info@kilimhouse.com
Url: http://www.kilimhouse.com

AOYAMA KILIM HOUSE

(ARARAT INTERNATIONAL CORPORATION)

8-3-1F, Shibuya 2-Chōme,
Shibuya, Tokyo,
Japan 150-0002

Tel: +81-3-5467-2622
E-mail: info@kilimhouse.com
Url: http://www.kilimhouse.com

© Hakan KARAR, Tokyo, January 2019

423	441	440	411	410	403	501	551	314
421	542	549	323	539	524	519	518	520
413	538	429	425	511	510	543	513	405
326	215	70	71	110	302	116	515	545
135	12	320	540	526	527	521	14	128
530	537	532	503	535	514	500	404	406
545	302	146	504	522	531	541	536	508
135	131	130						